

教育長 田中 康寛



長かった夏休みも終わり、2学期が始まりました。各園・学校では、夏休みを経て大きく成長した子どもたちの笑顔が見られましたが、厳しい残暑の中での熱中症の発生が心配です。また、市川市放課後保育クラブでは、夏休み中の新型コロナウイルス感染症の感染者が100名を超えておりますので、健康に十分留意して2学期をスタートしてまいります。

さて、100年前の9月1日、関東大震災が起こりました。9月1日は防災の日とされており、各地で防災訓練や関連行事が行われていますが、皆さんの備えはいかがでしょうか。最近では各地で線状降水帯が発生しており、命を脅かす気象災害が増えているように感じます。地震、台風、豪雨、がけ崩れなど、自然災害はさまざまです。各園・学校においては、過去の災害を教訓に、災害はいつでも起こり得るという意識で、子どもたちがいざという時に命を守る行動が取れるように指導してまいります。

また、2学期を充実したものとするため、子どもたちが夏休み中に学び体験したことをきっかけとし、興味関心を持ちながら主体的に新たな学びへとつなげられるよう、自己の気づきを得て広げ、深められるような声かけや場面づくりなど、サポートに努めてまいります。

続いて、夏休み中の出来事にふれたいと思います。まず、4年ぶりにドイツ・ローゼンハイム市への中学生海外派遣が実施されました。公立中学2年生と3年生の計16名がドイツでの11泊12日の行程を終え、無事帰国しました。帰国報告会では、ローゼンハイム市立メートヘン・リアルシューレ校での活動や、温かく迎えてくれたホストファミリーとの体験の報告を受けました。ドイツののどかな風景に感動したことや古くからある建物に歴史を感じたこと、初対面の人に対しても笑顔で接してくれるドイツの生徒たちのことも語ってくれ、新しい文化との出会いや日本との違いを肌で感じたことがわかりました。国際感覚を身に付けることは子どもたちにとって非常に大切です。10月に行われるローゼンハイム市からの中学生受入事業でも、各学校で有意義な国際交流が行われることを願っています。

次に、7月31日に公表された今年度の全国学力・学習状況調査の結果についてです。現在、各学校では、子どもたちに確かな学力を保障するため、自校の調査結果を手掛かりにして、問題の所在や原因の分析を進めています。今後は、学校・学級・児童生徒それぞれに合った具体的な手立てや方策を検討するとともに、来年度の調査に向けて、現小学5年生と中学2年生へは、学年の特質を踏まえた明確なアプローチをしてまいります。

長期の休み明けで学校生活に不安を抱いている子どももいるかと思えます。子どもたちの表情や体調、行動の変化を見逃すことなく、引き続き適切な支援・指導を行ってまいります。